

# かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.8 No.3

## いろんな生きもののいる河北潟での観察会



12月の河北潟自然観察会。コハクチョウの群れとそれらとともにいるクロツルを観察。

12月1日におこなわれた自然観察会では、こなん水辺公園でのネズミの調査がメインとなりました。そのほか水の中にいるヌマエビやミズカマキリ、コクマルガラスや水辺で餌を狙うオオダイサギ、イタチの痕跡、二番穂を食べるコハクチョウの群れなど、たくさんの生きものの一面をみることができました。

河北潟ではさまざまな会が観察会を実施しています。11月にはキャンプ協会の主催で約30名の方が集まり、ゴムボートで排水路を横断するなど、からだを動かしての元気な観察会

がおこなわれました。長年河北潟と関わってきた森の都愛鳥会や金沢市みどりの調査会などの活動も活発です。新しくできたこなん水辺公園は、会の集合場所や観察会の場となっています。

広大な河北潟に足を運ぶと、さまざまな場面に出くわし、生きものすばらしさとともに不思議さを実感します。仕事の時間、家庭の時間とともに、外にでて身近にいる野生の生きものをみる時間も大切です。河北潟の観察会に、ぜひ出かけてみてください。



水質汚濁をもたらす原因の一つである有機物は、炭素を核として水素や酸素などが結びついた化合物です。生物の体をつくっている物質や、し尿などの排泄物、そして生活排水中の固形物などのほとんどは有機物からできています。通常、自然の水域に含まれる有機物は、バクテリアにより食べられて無機物に分解されますが、このときにバクテリアは酸素を消費します。水質が安定的に保たれる上では、有機物が十分に分解されることが大切で、多くの有機物を含む水質では多くの酸素が必要となります。水質の中の有機物を分解するのに必要な酸素の量を表す数値が、COD や BOD です。

BOD は、水中の微生物が有機物を酸素分解するために消費する酸素量をいいます。COD は、水中の汚濁物が酸化剤によって化学的に酸化されるのに必要となる酸素量を表しています。いずれも数値が高くなると水のなかに有機物が多いことを示し、通常はどちらも水質に対して同じ傾向を示します。

本来、有機物は微生物の食べ物です。そして有機物は、微生物に食べられることによって分解され、多くは二酸化炭素として空中に放出されます。また、分解されてできた他の無機物は、植物の重要な栄養となって消費されます。そして植物は動物に消費され、一部は水域の外に持ち出されます。多くの健全な自然の水域では、適度の有機物の流入があることにより、エネルギーが添加され、豊かな生物群集（生態系）が形成されます。そして本来、流入した有機物の循環をになう生態系がうまく機能していれば、湖などの水域汚濁が短時間で進行することはないはずで

ところが、人為的な影響、たとえば下水が入ったりして有機物の量が極端に増えるようなことが起こると、水

中の酸素不足が起こり、嫌気性のバクテリアが働いて、不十分にしか有機物が分解されなくなります。いわゆる腐った状態となり、有害な物質や腐敗臭が発生します。また、大腸菌やさまざまな病原菌が発生しやすくなります。有機物が分解されずに溜まっていくと、ヘドロとなり生態系をになう生物群集への重大な影響も起こります。こうしたことからCODやBODが適正な範囲を超えて増加することは、おおきな問題であり、CODやBODを指標として水質が監視されます。

一方、有機物が湖沼などの水が滞留する水域に供給されることには、もうひとつ別の重大な問題があります。それは窒素やリンといった物質が溜まっていくということです。富栄養化という問題です。

(文： 高橋 久)

# 小学生88名による西部承水路のホテイアオイ抜き取り活動について

河北潟湖沼研究所生物委員会 川原奈苗

河北郡と金沢市のいくつかの小・中学校では、身近にある広大な自然「河北潟」をテーマにした総合学習がおこなわれています。津幡町立条南小学校の5年生は、身近な環境問題を考えるという取り組みのなかで、11月29日に88名が集まってホテイアオイを抜き取りました。子どもたちが中心となってすすめた活動についてご紹介したいと思います。

5年生は2学期から「河北潟の未来予想図を考えよう」というテーマのもとで、構想別にグループにわかれ、未来の構想を練るために過去や現状について調べはじめました。そのなかで河北潟の水をきれいにしたい、水をきれいにする施設をつくりたいというグループが、水質浄化施設や植物の力で水をきれいにするしくみなどを調べているところ、西部承水路のホテイアオイの記事（北國新聞H14.11.2）を見つけました。



「ホテイアオイはたくさんの水の栄養分を吸収してくれるけど、寒くなるといっせいに枯れて、西部承水路の水が汚れてしまう。」大群落をつくっているホテイアオイの問題に気づき、自分たちにできること、ホテイアオイを抜き取る計画に踏みだしました。

新聞記事を見つけたグループ25人は、他の5年生に呼びかけ、最初は休みの日に行ける人だけで行く計画をたてたようです。その後、先生を含めた5年生全員が町のバスを借

りて行くことになりました。

授業時間の2時間分が作業に当てられ、西部承水路の一部の場所で、たくさんのホテイアオイが抜き取られました。子どもたちみんなが休むことなく、ホテイアオイを引き抜いていました。抜きとることのできた量は大群落からみればわずかな量ですが、子どもたちの身近な環境に対する思いとチームワークは素晴らしいものでした。作業を終えた後は、子どもたちから「もっと抜きたい」、「残った分はどうなるの」などの心配の声と、「またいこう」という声があがったようです。

またホテイアオイを抜きとっている中で、ホテイアオイの根に住みついているたくさんの水生生物をみることができました。ギンヤンマのヤゴやミズムシ、ミズカマキリ、サカマキガイなど。

「ひさしぶりに、ミズカマキリをみた。」などの声もありました。外国からきた生物も、水を汚すとして問題にされる生物も、自然界においてほかの生きものと関わり合いをもって存在していることを実感します。

水を守ることの大切さと大変さ、そしてホテイアオイを住みかとしている生きものがあることがわかったりと、子どもたちにとって良い経験になったようです。河北潟の環境をより深く知ることができた経験が、よりよい地域の未来につながると思います。



## お知らせ

### 河北潟にやってきた珍しいお客さん

- クロヅルが越冬しています -

低地であるという条件をつけると、本州でも有数の水面と草原が広がる河北潟には、時折、遠く大陸からのお客さんがやってきます。日本では非常に確認例の少ない野鳥たちです。最近でも、国際的な貴重種であるクロヅラヘラサギをはじめ、アカアシチョウゲンボウやケアシノスリ、オオカラモズなどの飛来が確認されています。普通これらの「珍鳥」は、渡りの途中などにたまたま立ち寄ることが多く、短時間でいなくなってしまうのですが、今年秋に現れたクロヅルは、長く滞在しています。



コハクチョウの群れとその中にいるクロヅル。

河北潟の近くの水田で、クロヅルが飛来しているのが確認されたのは、10月28日のことでした。最初に確認したのは、河北潟で野鳥の研究を続けている中川富男氏でした。クロヅルは、毎年鹿児島県にはナベヅルやマナヅルに混じって少数が飛来しますが、日本のその他の地域で確認されるのはきわめて珍しいとされています。河北潟ではこれまで正式な確認記録はなく、おそらくはじめての確認報告になると思われます。

このクロヅルは、その後河北潟が気に入った様子で、12月1日の河北潟自然観察会の時にも、参加者全員で観察することができました。12月14日現在でも、津幡町の水田でコハ

クチョウに混じって、餌を採る姿が確認されました。このまま、河北潟で越冬しそうな様子です。大事なお客さんですので、姿を見かけることがあっても、刺激しないようにそっとしておいてあげましょう。



広々とした冬の河北潟の水田は、野鳥たちには安心してできる採餌環境です。

### 第28回河北潟自然観察会のご案内

新年度の第1回目の自然観察会は2月2日に開催する予定です。10月からこなん水辺公園に集合場所を変更して実施しています。冬の寒い時期は水がとても澄んでいます。水の中にみられる生きものや冬鳥を観察したいと思います。誰でも気軽に参加いただけます。集合場所：こなん水辺公園（金沢市大浦町）  
日 時：平成15年2月2日（日）  
午前9時集合（12時頃まで）

### < 編集後記 >

2002年もあっという間にもう終わりです。早かった一年でしたが、思い返すと自然再生協議会の発足など、嬉しいニュースがいっぱいあった年でした。新年からもどうぞよろしく願います。（N）

「かほくがた」 VOL.8 NO.3  
2002年12月18日発行  
発行所 河北潟湖沼研究所友の会  
〒920-0051 金沢市二口町八58  
河北潟湖沼研究所金沢事務局内  
TEL：076-261-6951 FAX：076-265-3435